

第1回コンソーシアム協議会 令和5年7月13日(木) 宮崎県庁防災庁舎 <中部地区>

【出席者】 中部地区の代表（進行）：保田委員、全体会での報告：高橋委員、記録：松田委員

県立みやざき中央支援学校	松田 律子
宮崎福祉医療カレッジ社会福祉士学科	保田 浩美
宮崎県社会福祉協議会	高橋 申尚
宮崎市教育委員会生涯学習課	大野 路子
県福祉保健部障がい福祉課	飽田 智洋

【協議の記録】

<青島青少年自然の家と県立看護大学の取組案について>

- 青島青少年自然の家は、職員研修、支援学校との協働による取組を進める。設備面でバリアフリー化が難しいので、どのような活動、配慮ができるか、またどう周知していくかを協議していただきたい。県立看護大学は専門性を生かした公開講座を実施する予定。委託先には、事情や実績などがあるので、それぞれの計画を尊重したい。
- 共生社会を目指すためには、対象を絞らず健常者と一緒に活動するものではないか。
- 周知について。みなみのかぜの他に参加を募るのか。
- 初めから障がいのある人だけの活動だと、分断になるのではないか。
- 物理的に対応が難しいので、ソフト面を考えていくしかない。
- 委託先の状況がある。障がい者の受入経験が少ない。段差が多く、身体障がいのある方には向いていない施設である。まずは、みなみのかぜとの取組で、施設職員が障がい児(者)や障がい理解について研修する。そして、障がい児(者)を受け入れながら、対象者を広げたりするなど、段階的に進める計画である。
- 施設職員だけで対応が難しい場合は、ボランティアを活用してはどうか。職員の研修段階からボランティアも参加する。または、障がいについて学ぶことも含めて一緒に活動する方を募集してはどうか。平日だとボランティアの協力可能。
- 市社協に協力依頼すると、ボランティア登録者を紹介してもらえる。
- 持続性を考えると、若い人達の参加、協力を得られることで、次へつながっていくのではないか。施設面などを、当事者目線でみてもらうとよい。
- 連絡協議会委員に協力して欲しいことなど、施設職員に確認する。
- 県立看護大学の公開講座申込に、どのような配慮や工夫が必要か。
 - ・ 合理的配慮という言葉は表現が固く感じる。自由欄に必要なことを書いてもらうやり方がよい。
 - ・ スマホが使えない人に向けて、電話などの窓口も必要。聴覚障がい者はFAX利用、視覚障がい者は音声読上げ。
 - ・ 手元にどう届けるかが課題。
 - ・ 宮崎市の講座案内に加える。紙ベースの情報提供も必要。届いているか把握が難しい。
 - ・ 民選委員から、気になる方への配付を依頼する。民生委員の集まりで配布、周知する。
 - ・ 施設利用者に対して、社協から周知することができる。
 - ・ 情報をまとめて、周知する仕組みが必要。

第1回コンソーシアム協議会 令和5年7月13日(木) 宮崎県庁防災庁舎 <南部地区>

【出席者】 南部地区の代表(進行): 川口委員、全体会報告: 栗畑委員、記録: 外山委員

県立都城きりしま支援学校	黒木 光博
南九州大学人間発達学部子ども教育学科	若宮 邦彦
都城市障がい児(者)基幹相談支援センター	岡村 詩織
宮崎県特別支援学校PTA連絡協議会	永迫 美紀
都城市障がい者自立支援協議会	川口 貴博
特定非営利活動法人 宮崎県精神福祉連合会	栗畑 貴志
子どもと家族・関係者の集まり ポン太クラブ	外山 明美
H.P.ミュージックサポート	牧原 峰男
都城市教育委員会生涯学習課	上原 里奈

【協議の記録】

<南部地区の事業について>

- 都城市生涯学習課が受託。「よか余暇学習ネットワーク事業」を活用し、昨年度のフットパスを講座として実施する。①フットパス、②音楽教室など。①は高崎町で実施予定。フットパスコースがすでに4カ所ある(6地区)。景観が良いので、稲の育った秋が時期として相応しい。ボランティアの依頼済み。高城高校、高崎中学校、高崎サテライト(社協)。
- 昨年度は、地区の民生委員、中学生など協力いただいた。ボランティアフェスでの発表も行った。地域との連絡の段取り、民生委員とのつながり、施設への声かけなど協力できる。
- 2年間参加し、学生ボランティアのおかげで、利用者、職員が完歩した。今年も協力したい。
- 4コースあるので、1カ所に限らず、たくさんの方が参加できるように企画できると良い。
- いろいろな内容の参加の仕方があると、子どもから大人まで参加しやすい。裏方の仕事を高城高校等の生徒さんたちにボランティアを依頼できると良い。
- 大学の授業の一環とすると、生徒の意欲が上がる。学生との交流、子供達との交流、「ななめプロジェクト」として、高校生などうまくリンクできると良い。
- 社教、地域の民生委員、施設などへの呼びかけなど協力できる。
- 声をかけていただければ、協力したい。

<一般の生涯学習講座に障がいのある方々が参加するための方策について>

- 今年から、できるところから、バリアフリー化を目指す。ボランティアの依頼等があれば、対応できるようにする。
- チラシの表記の仕方。障がいのある方の参加ができるなど。そのためにも、今後、講座を担当する講師へのアンケートで、意見などを把握する。まず、どのような障がい種なら対応できるか、どのような講座内容なら実施可能かなど。
- 移動支援を、すべてボランティアとして行っている。
- 場所、時間帯など、検討すべき内容がある。
- 委員がもっている、それぞれの得意技を繋げると、形作られていくのではないかな。

第1回コンソーシアム協議会 令和5年7月13日(木) 宮崎県庁防災庁舎 <北部地区>

【委員】 北部地区の地区代表(進行): 飯野委員、全体会での報告: 木村委員、記録: 内勢委員

日向市地域福祉コーディネーター連絡会	成合 進也
旭化成アビリティ延岡営業所 オフィスサービス課	木村 進二
のべおか障がい者就業・生活支援センター	塩見 享之
一般社団法人宮崎県作業療法士会	内勢 美絵子
延岡市教育委員会社会教育課	飯野 小巻

【協議の記録】

<北部地区の事業について>

○ 延岡市の生涯学習講座は、誰でも参加できる形のチラシは配布している。子供向け、高齢者向けの講座はあるが、働く世代向けが少ない。子供向け、高齢者向けは、すぐに定員が埋まる。子どもセンターで、昨年度、市社会教育課と九州保健福祉大学が協働で実施した講座に聴覚障がいのあるお子さん1名が参加。手話サークルのボランティアが支援に入ってくさった。

今年は、障がい者向けの講座を計画する。誰でも参加できるとしておいて、障がい者を対象としたものとする。延岡しろやま支援学校に協力依頼済みで、学校施設を使用させてもらう。内容、日程はこれから計画。講座は全3回で、第1回は座位や身体を動かす内容、第2回は卒業した後に関する講座で、デイキャンプ+防災などを検討、第3回は、身だしなみや化粧、ファッション、ネイルなど、いくつかのブースを設けて、興味あるコーナーで受講するなど。

- 講座内容の工夫、講師、サポーターの紹介、当日のサポートについて、協力できる。
- 他の事業所や当事者への告知、当日のサポートについて協力できる。
- 案内等の協力ができる。当事者がスタッフとして関わることも、本人達が楽しめると思う。
- 情報が誰から提供されるかが重要。学ぶと同時につながりが生まれ、関係性ができる。暮らしやすさに繋がる。何を学びたいか、何をしたいか。イベントのようにブースを設けてみてはどうか。動機づけが必要。当事者も、支援者も、結構忙しい。日程調整をどうするか。
- そもそも声を上げることができないのでは。学校卒業後、家に引きこもっている状況など。
- 精神障がいのある方は、気分（気持ち）の波に左右させることが多い。ストレスをどう解消するか。趣味も無い。ゲームばかり。ピアサポートで解決できる場所があれば良い。精神障がいの方々の多くが、能力は高いが、離職、金銭の管理、子どもの養育などの課題を抱えている。アビリティの方が講座のスタッフとして来ていただくと、当事者との交流も図られると思う。
- 当事者のニーズを掘り起こすことが難しい。取り掛かりとしてデイキャンプに参加してみる。その際、聞き取りアンケートする。ミニバレーなどの参加率は高い。そういう場所を求めている。自分にとって楽しむことが優先される。学ぶより生きるほうが先。「学び」というキーワードより「食べる」「守る」。食べるも学びになる。
- 生涯学習の入口。地域の中で学び続ける。まず、知的障がい、身体障がいの方向けに提供する。将来的には、精神障がいや引きこもりなどへ広げる。すでにある講座を生かす。講師と当事者がお互いに知り合うことも大切。社会教育課のコーディネーターなどへ告知する。
- 募集人数をどうするか。第1回をまず行う。1名をどう増やすか。情報の出し方、広報をどうするか。1名のニーズから、2名3名とどう増やすか。ネットワークを広げていく。例えば、相談支援専門委員など、支援者と一緒に参加してもらう。一人が一人を連れてくる。その人たちが楽しめれば、口コミなどで広がっていく。
- 実施時期をどうするか。延岡しろやま支援学校の取組は、在学中の授業で、ととろ聴覚部門の小学部・中学部で実施予定。延岡市のチラシはどうか。

<既存の生涯学習講座を障がい者も参加できるようにバリアフリー化するための方策について>

- 今やっている講座に、障がいのある方々もまず参加してもらう。
- それぞれの福祉事業所へ依頼する。支援者が当事者を連れて参加するよう依頼する。
- 正式な依頼があると、伝えたりしやすい。動きがとれる。
- 作業療法士会などにも参加依頼する。ボランティアとしての参加も依頼できる。
- ボランティアをどう集めるか。社協のボランティアの活用はどうか。学びをサポートするボランティアとして、ターゲットを絞ってはどうか。チラシ作成も依頼してみてもどうか。